



石山地区公民館で月1回開かれている「実家の茶の間」＝新潟市東区石山1

新潟市東区の石山地区公民館に月1回、昨年3月末で閉じた同区の地域の茶の間「うちの実家」の元利用者が集まり、交流を続けている。

新たな場の名称は「実家の茶の間」。うちの実家が閉所した翌月から、元利用者が「会えないと寂

新潟・東区

しい」と、公民館に自然と集合するようになった。毎回25人前後が顔を出し、お茶を片手におしゃべりを楽しんでいる。新たな参加者も加わった。

うちの実家に通っていた同市中央区の無職豊岡覚さん(66)は「やっぱり居場所があるっていいな

交流続く「実家の茶の間」

と思う。この場所で助け合える絆をつくりたい」と話す。

うちの実家は2003年に、代表の河田珪子さん(69)が空き家だった一軒家を借りて始めた地域の茶の間の「代表格」。県内各地に茶の間が広がり目的を果たしたとして、10年間を節目に幕を閉じた。新しい場に毎回顔を出している河田さんは「前と変わらさず、にぎやかですね」と笑顔を見せた。

石山地区公民館での「実家の茶の間」は毎月第2金曜日の午後1時〜5時半に開かれている。お茶代100円。事前予約は必要ない。